

公共事業再評価調書

整理番号	R4-6
------	------

担当部課名	県土整備部 道路課	電話番号	017-734-9651
		E-MAIL	doro@pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	<input type="radio"/> 未着工 <input type="radio"/> 長期継続 (年) <input checked="" type="radio"/> 再評価後 (5 年) <input type="radio"/> その他 ()
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1 事業概要

事業種別	道路改築事業	事業主体	<input checked="" type="radio"/> 県 <input type="radio"/> 市町村 <input type="radio"/> その他 ()																										
事業名	国道改築事業	地区名等	国道280号 蓬田～蟹田	市町村名	蓬田村、 外ヶ浜町																								
事業方法	<input type="radio"/> 国庫補助 <input checked="" type="radio"/> 交付金 <input type="radio"/> 県単独 財源・負担区分 <input checked="" type="radio"/> 国 45 % <input checked="" type="radio"/> 県 55 % <input type="radio"/> 市町村 % <input type="radio"/> その他 %																												
採択年度	平成 15 年度 (用地着手 平成 16 年度 / 工事着手 平成 18 年度)																												
終了予定年度	令和 8 年度 (令和 4 年 3 月工期変更 (再評価時(2回目) 令和 4 年度))																												
事業目的	<p>・一般国道280号は、青森市を起点とし津軽半島最北端の東津軽郡外ヶ浜町三厩地区を経由する半島周遊路線の一角を担う幹線道路であり、東青地域の生活・産業・経済・観光等周辺地域の振興を支援する道路として位置付けられている。</p> <p>・当該工区の現道部は車道幅員狭小 (Wmin=5.3m) のため車両すれ違いが困難であることから、バイパス事業を実施し、生活道路における安全で円滑な交通機能の確保、観光振興等における交通利便性の向上を図るものである。</p> <p>【計画名称】青森県の道づくり基本方針 (平成14年度策定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流促進と連携強化を支援するあおもりの道づくり ・安全で安心な暮らしを守るあおもりの道づくり <p>【計画目標】①生活・経済圏間の連携強化支援 ②交通拠点へのアクセス性強化 ③救急医療体制の支援 ④農水産品の都市への円滑な輸送支援 ⑤国土保全を担う中山間地域と都市との連携支援</p>																												
主な内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>再評価時(2回目)</th> <th>再評価時(3回目)</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画延長</td> <td>6,800 m</td> <td>6,800 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>計画幅員</td> <td>6.5(14.5) m</td> <td>6.5(14.5) m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>改良工</td> <td>6,592 m</td> <td>6,592 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>95,584 m²</td> <td>95,584 m²</td> <td>0 m²</td> </tr> <tr> <td>橋梁工</td> <td>4 基</td> <td>4 基</td> <td>0 基</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	再評価時(2回目)	再評価時(3回目)	増 減	計画延長	6,800 m	6,800 m	0 m	計画幅員	6.5(14.5) m	6.5(14.5) m	0 m	改良工	6,592 m	6,592 m	0 m	舗装工	95,584 m ²	95,584 m ²	0 m ²	橋梁工	4 基	4 基	0 基	
	区 分	再評価時(2回目)	再評価時(3回目)	増 減																									
計画延長	6,800 m	6,800 m	0 m																										
計画幅員	6.5(14.5) m	6.5(14.5) m	0 m																										
改良工	6,592 m	6,592 m	0 m																										
舗装工	95,584 m ²	95,584 m ²	0 m ²																										
橋梁工	4 基	4 基	0 基																										
事業計画は前回再評価時と比較して変更はない。																													
事業費	○再評価時(2回目)総事業費 9,000 百万円 (単位:百万円)																												
		～R元年度	2年度	3年度	4年度	小 計	5年度～	合 計																					
	計 画 (うち用地費) (R4年3月変更)	7,650 (1,100)	190 (100)	190 (20)	190 (17)	① 8,220 ② (1,237)	780 (35)	9,000 (1,272)																					
実 績 (うち用地費)	8,117 (889)	106 (106)	157 (147)	200 (110)	③ 8,580 ④ (1,252)	420 (20)	⑤ 9,000 ⑥ (1,272)																						

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

A ・ (B) ・ C

事業の進捗状況	事業費割合 (うち用地費)		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
			95.3 % [③/⑤] (98.4 %) [④/⑥]	104.4 % [③/①] (101.2 %) [④/②]
	主要工種 毎割合 (事業費)	改良工 (6,695百万円)	96.1 %	96.1 %
		舗装工 (800百万円)	80.5 %	80.5 %
橋梁工 (1,505百万円)		100 %	100 %	
説 明	<p>・当該工区のバイパス機能の早期効果発現を図るため、2工区のうちJR津軽線かいた跨線橋から主要地方道鱈ヶ沢蟹田線との交差点までの区間を優先して整備し、平成29年度に部分供用した。</p> <p>・平成30年度から2工区残区間の用地買収を開始し、用地買収・埋蔵文化財調査が完了した箇所から順次工事に着手している。</p>			
問題点・ 解決見込み	<p>・平成29年度までに1工区及び2工区の一部を供用開始しており、当事業に対する地元の理解を得られている。</p> <p>・今後の事業進捗における阻害要因は無いが、前回再評価時から工期変更となる。</p>			
事業効果 発現状況	<p>・平成22年度に1工区(延長L=5,120m)、平成29年度に2工区の一部(延長L=1,680mのうちL=900m)を部分供用しており、交通利便性の向上が図られている。</p> <p>・現道部においては、通過交通がバイパスに転換することにより、安全で円滑な交通の確保が図られている。</p>			

(2) 社会経済情勢の変化

(A)・B・C

社会的評価	全国・本県における評価	【全国の評価】 ・令和3年5月に閣議決定された「第5次社会資本整備重点計画」では、国民が真の豊かさを実感できる社会の構築を目的とし、「安全・安心の確保」、「持続可能な地域社会の形成」、「経済成長の実現」の3つの中長期的目的に資する社会資本を重点的に整備し、ストック効果の最大化を目指すことが必要とされている。	【県内の評価】 ・自動車交通への依存度が高い本県では、道路整備に対する根強い要望がある。 ・東日本大震災を契機として、これまで道路に必要とされてきた通行機能に加えて、災害発生時の防災機能（緊急物資輸送や避難路等）確保の重要性が再認識されている。
	当地区における評価	・青森市から東津軽郡外ヶ浜町三厩地区に至る沿線市町村で「国道280号バイパス建設及び整備促進期成同盟会」を組織し、本路線の整備促進を県や国へ働きかけるなど、地域における関心は非常に高い。	
必要性		・「青森県緊急輸送道路ネットワーク計画」の中で、部分供用区間は第1次緊急輸送道路に位置付けられており、整備中区間も供用後は緊急輸送道路として位置付けられる予定である。 ・当該工区の現道部は、車道幅員狭小のため車両同士のすれ違いに支障をきたしている。 ・津軽半島地域のライフラインとして、安全で円滑な交通確保を図るため早期整備が必要である。	a. b
適時性		・当該工区の整備により、平成28年3月に開業した北海道新幹線奥津軽いまべつ駅及び令和3年7月に世界文化遺産へ登録された大平山元遺跡へのアクセス利便性が向上し、津軽半島地域の観光振興などの経済支援に寄与するものである。	a. b
地元の推進体制等		・国道280号は津軽半島を縦断する道路であり、北海道新幹線の開通及び縄文遺跡群の世界文化遺産登録効果に伴う青森地域の観光振興の発展にもつながることから、当該工区の早期完成が望まれている。	a. b
効率性		・第1次緊急輸送道路として、地震・津波等の災害時において重要な役割を担う。 ・奥津軽いまべつ駅、大平山元遺跡への交通利便性の向上が図られ本地域の観光振興に寄与する。 ・通過交通が現道の生活道路からバイパスに転換されるため、沿線住民の安全性が確保される。	

(3) 費用対効果分析の要因変化

(A)・B・C

区分	主な項目	再評価時(2回目) (H29)	再評価時(3回目) (R4)	増減								
費用項目 (C)	(1) 事業費	11,111 百万円	13,071 百万円	1,960 百万円								
	(2) 維持修繕費	600 百万円	861 百万円	261 百万円								
	(3)	百万円	百万円	百万円								
	(4)	百万円	百万円	百万円								
	(5)	百万円	百万円	百万円								
	総費用	11,711 百万円	13,932 百万円	2,221 百万円								
便益項目 (B)	(1) 走行時間短縮便益	6,255 百万円	13,648 百万円	7,393 百万円								
	(2) 走行費用減少便益	-71 百万円	624 百万円	695 百万円								
	(3) 交通事故減少便益	50 百万円	184 百万円	134 百万円								
	(4) 冬期便益	2,179 百万円	3,922 百万円	1,743 百万円								
	(5) 防災便益	2,730 百万円	2,480 百万円	△ 250 百万円								
	総便益	11,143 百万円	20,858 百万円	9,715 百万円								
	地域修正係数(φ)	1.429	1.404	青森地方生活圏								
修正総便益(B')	15,923 百万円	29,285 百万円	13,361 百万円									
費用便益比	費用便益比(B'/C)	0.95	1.50									
	修正費用便益比(B'/C)	1.36	2.10									
費用対効果分析 (B'/C)	【費用対効果分析手法】 (分析手法、根拠マニュアル等) ・費用便益分析マニュアル(平成30年2月 国土交通省道路局、都市局) ・道路整備事業における県独自の費用便益分析実施要綱(令和2年3月 県土整備部道路課)			a. b								
計画時との比較	【計画時との比較における要因変化】 ・費用便益比の主な増加要因は、計画交通量の見直しによる。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>交通量の考え方</th> <th>計画交通量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>再評価時(2回目)</td> <td>部分供用済みのバイパス交通量のみ</td> <td>現在(部分供用済)のBP交通量×将来伸び率</td> </tr> <tr> <td>再評価時(3回目)</td> <td>バイパス(BP)交通量と現道交通量を合算</td> <td>全線整備後、現道交通量の多くがBPへ転換 計画交通量が増加</td> </tr> </tbody> </table>		交通量の考え方	計画交通量	再評価時(2回目)	部分供用済みのバイパス交通量のみ	現在(部分供用済)のBP交通量×将来伸び率	再評価時(3回目)	バイパス(BP)交通量と現道交通量を合算	全線整備後、現道交通量の多くがBPへ転換 計画交通量が増加	a. b
	交通量の考え方	計画交通量										
再評価時(2回目)	部分供用済みのバイパス交通量のみ	現在(部分供用済)のBP交通量×将来伸び率										
再評価時(3回目)	バイパス(BP)交通量と現道交通量を合算	全線整備後、現道交通量の多くがBPへ転換 計画交通量が増加										

(4) コスト縮減・代替案の検討状況

(A)・B・C

コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 ・路盤材・アスファルト舗装合材に再生材を使用し、経費の縮減を図っている。 ・排水施設等の小規模構造物については、工場製品を使用し、工期の短縮及び経費の縮減を図っている。	a. b
代替案	【代替案の検討状況】 ・代替案として現道拡幅ルートが考えられるが、現道区間は人家連担部であることに加えJR津軽線が近接しており、多額の補償費用やJR線の移設が伴う非常に困難な道路計画となることから、現バイパスルートが優位であると判断される。	a. b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

(A)・B・C

住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 ・青森市から外ヶ浜町三厩地区に至る沿線市町村で構成される「国道280号バイパス建設及び整備促進期成同盟会」よりバイパスの早期完成を要望されている。	【住民ニーズ・意見】 ・当該区間は、現道車道幅員が狭小のため車両のすれ違いに支障をきたしており、円滑な交通と歩行者の安全を確保するためにも、早期の整備が求められている。	a. b
環境影響への配慮	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 (1)対応状況 ● 配慮している ○ 配慮していない (2)区分 ● 農林地等の緑地や植生の改変 ● 地形や地盤の改変 ● 水系や水辺の改変 ○ 海域の改変 ● 建設機械の稼働 ● 土砂等の搬出・搬入 ● 廃棄物処理等 ● 道路(車歩道)、雨水排水路の設置 ● 基礎や地下建造物の建設 ○ 低層建築物の建設 ○ 高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮 ● 高架構造物の建設 ○ 海底・海中建造物の設置や建設 (3)特に配慮する対応内容 ・排気ガス排出対策型や低騒音・低振動型建設機械の使用に努めている。 ・土工バランスに配慮した設計にするとともに、沿道の自然景観資源に配慮し、張芝等による緑化に努めている。 ・産業廃棄物は再資源化施設へ搬入し、リサイクルに努めている。		a. b
地域の立地特性	(地域指定) 中山間地域(振興山村地域、半島振興地域、特定農山村地域)及び特別豪雪地帯 (災害の記録) 平成14年8月 現道部で土砂崩落発生(交通規制7日間) (危険箇所情報) なし		

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	● 継続 ○ 計画変更 ○ 中止 ○ 休止
評価理由	・事業の進捗状況が「B」評価であるものの、本路線の持つ重要性や沿道環境の改善効果等を総合的に評価すると、今後も着実に事業を推進し、早期の事業効果発現を図る必要があることから対応方針を「継続」とした。
備考	

4 公共事業再評価等審議委員会意見

委員会意見	○ 対応方針(案)どおり ○ 対応方針(案)を修正すべき
委員会評価	○ 継続 ○ 計画変更 ○ 中止 ○ 休止
附帯意見	(附帯意見がある場合に記載)
評価理由	(委員会意見が「対応方針(案)を修正すべき」の場合に記載)